

特発性間質性肺炎患者の運動耐容能と症状における酸素療法効果

特発性間質性肺炎は安静時の動脈血液の酸素濃度が良好にかかわらず、労作時(動いた時)に激しい低酸素血症と息切れ感が表れるのが特徴な疾患です。特発性間質性肺炎患者さんの労作時低酸素血症は、その後の経過の予測に重要であることが示されました。また、労作時低酸素血症は呼吸リハビリテーションを進める際に障壁になっています。

しかし呼吸リハビリテーションを行う際の酸素療法の有効性は明確になっておりません。呼吸リハビリテーション中の酸素療法の使用は明確な基準もなく、酸素療法の併用に肯定的な研究報告は無いのが現状であります。そのため特発性間質性肺炎患者の呼吸リハビリテーションにおいて、低酸素血症のリスクを最小限に抑え、より効果的な治療方法を検討するために、酸素療法を併用する基準や効果を示す検討が必要であります。今回、特発性間質性肺炎患者における呼吸リハビリテーションに酸素療法を併用した効果を検討する研究を計画しています。

2009年1月～2013年3月までに当院で診断された特発性間質性肺炎患者さんの診療情報を収集して解析を行います。この研究では、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報を厳重に保護しています。上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師・木村智樹(電話 0561-82-5101)までご連絡いただければ幸いです。

研究責任者:公立陶生病院 参事兼呼吸器・アレルギー疾患内科部長 谷口 博之

研究協力者:公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 木村 智樹

研究協力者:聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 教授 有菌 信一